第21回 市民自治を考える懇話会 会議録要約版

日 時	平成20年5月8日(木)午後7時~9時
場 所	市役所南館 講堂
出席者	(委員) 11名 (事務局) 3名 (サポートスタッフ) 1名

会議内容

提言書の素案について

主な内容と意見

事務局

本日は、前回に引き続いて、提言書の素案について意見をいただきたい。前回にいただいた意見を反映して一部修正している。修正箇所は、4ページの3行から4行目に間接民主制と直接民主制についての内容を加えた。5ページの用語の定義の中の協働の部分で、協働は市民と行政だけではないと言う意見を反映した。6ページの市民の責務の部分で、人と人とのつながりや思いやり、意思疎通を図ると言う意見を反映した。8ページの行政の役割と責務の(3)職員の役割と責務については、久先生からのアドバイスもあり、市民ニーズに応えるように創意工夫をするという内容に修正した。また、意見の中になかったが、職員の職務遂行にあたっての法令遵守についての内容を追加した。10ページの参画と協働の仕組みの(5)学習機会の提供・充実で、市民同士のコミュニケーション能力の向上や育成など、公の心を育てると言う内容を盛り込むという意見を反映した。修正した内容は以上である。また、委員より提言書の「はじめに」の部分の案をいただいているので、一読いただいて意見をいただきたい。

いただいた案は、教育、福祉、文化、環境というテーマでまとめられている。

繰り返しになるが、「はじめに」と「おわりに」は、委員でお願いしたい。

(久先生)

和泉市では、「はじめに」の部分は市民委員で書いているが、内容としてはまず、和泉市はどのようなまちなのかについて書いている。例えば歴史について書くということであるが、今回、提案いただいた内容は、どちらかという将来に向かっての宣言が多い。その前に、大阪狭山市は、このような歴史をもって、また、このような文化的な伝統をもって、生きついできた。だからそのようなよいところを伸ばすためには、さらにこうすればよいという流れになればいいと思う。

私が感じている大阪狭山市は、狭山らしい話をするならば、狭山池を中心とした話は、はずせないと思っている。

また、よく出てきた南北問題についても、マイナス面で捉えずに、よい方向で考えていくと、伝統ある村をベースに脈々と伝統が受け継がれている中に、さらに新しいニュータウンに来た人が新しい風を持ち込んで、更に発展させようとしているという文面にすれば、前向きな発言になると思う。このように、歴史でも、古いものではなく近年のことについても加えながら書いていく方がよいと思う。

少し考えて来たものの発表すると。狭山池をシンボリックにデザインし、「狭山池とともに歴史を守ろう、わがまちを」ということで、文章は、「金剛の山々、泉北丘陵、羽曳野丘陵に三方を囲まれ、中央を走る南海電鉄、水を湛えた狭山池、私たちは、この景観豊かで穏やかなまち、そして便利がそろったコンパクトなまちに誇りを持ち、未来の市民へと繋げて行きたい」そのためには、自治基本条例が必要であるという流れになっていく。

事務局

今の内容に肉付けをしていき、後の文章につながっていけばよいと思う。

「はじめに」の案を読ませていただいたが、内容的に「はじめに」で書くものではないように思う。

(久先生)

いただいている案の前にもう一つ文章があると繋がると思う。和泉市の場合でも、特徴的なものは何かということでの話しの中で、大阪府下で2つしかない中学校給食を実施しているという話がある。その内容を「はじめに」の文章の中に入れようという話がある。やはり特徴のある何かをやっている、だからそれを受継いで将来もやっていこうという形にするなども考えられる。この環境面でもそうであるが、陶器山の話が出ていたと思うが、では、狭山にとっては陶器山がどういった存在であったのかを前に持ってくると唐突なイメージがなくなる。

よって、狭山の歴史や文化や特徴について、今までこうであったからこうするという肉付けをしていただければよいと思う。

狭山の特徴としては、パチンコとラブホテルの規制条例を作ったことである。また、伊丹市のように「わたしたちのまちは、わたしたちで作っていく」といったキャッチフレーズを入れるとよいと思う。

事務局

パチンコとラブホテルの規制条例のように、狭山らしさのような内容をどんどん挙げていただければよい。

(久先生)

この懇話会がスタートした時にこのような話しをしていたと思う。一人ひとりがどういった内容を入れておく必要があるのかを出していただいたら繋がってくると思う。

私が見る狭山の中では、金剛駅西口の防犯ステーションの取り組みについては、全国的にアピールしてもインパクトがあるような取り組みである。そのようなものは、書いた方がよいと思う。

防犯ステーションの取り組みのなかで、「自分たちのことは、自分たちです」という意識が深まってきた。全国的にもこのような取り組みがあると思うが、半年ぐらいは活発に活動しているが、それ以降は機能せずその施設が倉庫代わりになっているところもあると聞いている。

このような取り組みが自分たちの住んでいる地域にあればよいと思う。地域の人たちと交流し、色々な話しをしていくうちに団結力ができてくる。

(久先生)

和泉市の場合もその話が議論にあって、連携や協力と言っても、人間関係ができていない人が連携や協力など出来るはずがない。人間関係云々の前に先ず、お互い顔見知りになろうということで、例えばイベントの準備を一緒にしたり、身近なところで親しくなっていこうということであった。

狭山で言うと狭山池まつりの活動でおそらくそういうことが起こってきている。伝統というものが出来ていると思う。クリーンアクションに参加した高校生も最初は渋々だったが、活動をすすめるうちに、きれいにするのが楽しくなってきたと言うようになったのも狭山池があったからである。このように何か、きらっと光る言葉を、はじめのところに散りばめていけば、分かりやすいし、面白い「はじめに」ができると思う。

子どもたちにふるさとを作ってあげようということで、まつりを実施している。もう20年ぐらいになると思う。それは、だんじりが無かったことと、産業廃棄物の反対運動で団結したコミュニティの継続にあった。

目的さえあれば、人は集まってくる。PTAなどはそうであるが。後は、どの様にして継続し

ていくかである。せっかく出来たコミュニティをどう継続していくために、何をしていくかである。意思の疎通を図りながら、議論していかないといけないと思う。そのようなことを提言に盛り込めればよいと思う。

前日も言ったが、子どものために、何ができるかということである。最近、子どもを叱る人がいない。自分の子どもにも叱れない親がいる時代である。できたら近所の人たちが、子どもを見守っていかねばならないと思う。このような内容も盛り込めればよいと思う。

市民の責務のところは、お互いの意見を尊重しあえるようなことを「はじめに」に書いておいたほうがよい。

(久先生)

「はじめに」は、あれもこれもではなく、これを入れるといった考え方で内容を凝縮させたほうがよい。内容は、後ろに沢山入ってくる。「狭山をアピールしたり、皆に分かってもらったり、市民皆が共有したいということであれば、これである。」と言った思い、こだわりを出せばよいと思う。それが二つ三つとなってくると薄まってくるので、「これは!」というものをせばよいと思う。

1つ尋ねるが、和泉市では、分かりやすい歴史がいくつかある。1つは、安倍清明の母親の葛乃葉姫の伝説がある。あとは、「くわばら、くわばら」のくわばらの雷の話など、和泉市の歴史で、全国的によく知られているもので、和泉市と言えばこれだという歴史がいくつかある。こういったものを入れておくという話しになった。

和泉市は、和泉市の自治基本条例というタイトルになるのか、全国で作られている自治基本条例のタイトルは、色々である。大阪狭山市は自治基本条例とするのか。自治基本条例というタイトルであれば、少し硬い様に思うが。

(久先生)

寝屋川市は、「みんなのまち基本条例」という名前である。条例づくりに携わっていない人は、この名前からは何の条例か分からないという声があった。ソフトな名前になると内容がわかりにくく、逆に自治基本条例という名前であれば自治かということと理解されやすいが、名前が硬い、どちらがいいのか一長一短である。

名称の件は、またある段階で、議論したほうがいいのかも。

事務局

この懇話会は、他市でも策定されているような、自治基本条例を大阪狭山市でも目指していくための提言をいただくのが目的である。特に名称には拘っていないが、まちづくり基本条例という名前の自治基本条例はあるが、「まちづくり」と付けてしまうと、どちらかと言うと開発や土地利用の規制などがメインになっているものが多いために、敢えてまちづくりという言葉は避けたほうがよいと考えている。

面白いと感じたのは、箕面市は、まちづくり理念条例である。内容の解説書を作って公表している。

事務局

本市も、この懇話会からの提言を受けて、条例制定するときには、逐条解説書を作って公表していく。そうでないと、条例本文だけでは、内容が伝わらないと考えている。

(久先生)

箕面市のまちづくり理念条例は、タイプが少し違う。まさしくまちづくりの方向性を示す理念が書いてある。前々任の市長の意向で作られたものであるが、理想は、都市憲章を作りたかったようである。アメリカでよくある「シティーチャーター」というものであるが、機が熟していないということで、本当の理念部分だけを載せたものであるという背景があるので少し、自治基本

条例とは違うタイプのものである。

条例ができたときには、市長にいく前に、市民に問いかけはあるのか。

事務局

提言書がまとめれば、条例案の起草と平行して、提言書の内容を多くの市民の方にお知らせする必要があると考えている。

それは必要であると思う。

事務局

提言書の「はじめに」の部分であるが、内容を少しまとめてみると、狭山の歴史や自然から切り出して、狭山池を中心に発展したことや、陶器山の自然やパチンコ・ラブホテルの規制条例など市民が中心となって守ってきたという自主的なまちづくり活動を地道にしていって、それが最近の金剛駅の防犯ステーションの活動にも？ がってきている。狭山池についても長い間の工事が終わったのをきっかけに、市民が主体となってクリーンアクションや狭山池まつりが行われ、コミュニティの再生につながっている。自分たちのことは、自分たちでやってみるといった考え方に基づいたまちづくりの方向性というものをこれからも続けていきたいということになると思う。そしてそのようなまちづくりを進めるためには何が課題であるのか、その課題を解決するための方策を提言につなげて行くという内容になると思う。

あとは、皆さんの思いを短冊にして「終りに」に載せていくということになる。全体の骨組みはこのようなことになると考えられる。これはあくまでも、一つの例であるので、委員の皆さんで検討いただければありがたい。

狭山は、昔、狭山藩であったが、それを知る市民は少ないと思う。狭山藩は、1万1千石でこのあたりで7千石だったと思うが、小さいながらもまとまってきたと思う。そういうことから、考えると、自主独立というか自主的にこの狭いまちでも運営していく内容を書き込めばどうか。

そうするには、どこかの大きなところと合併するのではなく、独立して行うのであれば、思い切った取り組みが必要であると思う。財政面においても、市民も我慢するところは我慢しないといけない。要求ばかりではだめであるし、職員もそうだし、議員もそうである。皆が、少しずつ我慢しあっていかないと、独自で文化の誇りある狭山を継続していけないと思う。

いくら謳ったところで、実行していなければ何もならない。そうするためには、どうしたらいいのかということを目指して、自治基本条例の中に入れていって、それを達成するための手段を入れていけばよいと思う。

狭山の中で、伝統や文化や歴史と言われても即答できない。狭山池はあるが、今回、博物館ができたので、何とかシンボリックな感じがする。

狭山はどの様なところと言われた時に、狭山池としか答えられない。伝統的なことは何かということも答えられないと思う。

(久先生)

私が投げかけているのは、狭山の歴史や伝統など無いのであれば、書かなくていいし、あるのであれば議論して書き込めばよい。

友人に狭山を紹介するときは、ラブホテルやパチンコ屋がないまちと言っている。

(久先生)

皆さんの意見をお聞きしている時に気付いたのですが、昔からお住まいの方は、身近すぎて見えていないと思う。やはり、他市などから転入された方は、探そうとする。

例えば、狭山池をダムにする時に、昔の堤体が出てきたということで、狭山池博物館ができたということになっているが、地元の人でも気付かなかったものが、ダムを造ることによって発見し、共有できたのではないかと。それにより、まつりもし、清掃活動もするということにつながってきたのかもしれない。いい面で言うと、あの博物館が造られたからまとめられたということが言えるのではないかと。あれだけの資産、資源を持っている自治体は案外無いと思う。逆に和泉市の例で言うと何でまとめられるのかであるが、それが無いのである。歴史はあるが、まとめようとするところの狭山で言う狭山池のようなものは無い。そこは、どうなのかは、皆さんでもう少し話し合った方がよい。

和泉市は今、大規模なニュータウン開発により、ガラッと変わっていくのであろう。

逆に大きなまちよりも、大阪狭山市のようにコンパクトなまちの方が纏まりやすいと思う。

(久先生)

大阪狭山市が、コンパクトなまちであり続けてきたのは、狭山藩の心意気というか、伝統を継いでいるのかどうかというのを皆さんで確認したほうがよいのではないかと。

それはやはり、狭山池があったからであると思う。

誰か狭山を中心にした物語を書いてもらえないか、狭山の歴史のことでも。もっと狭山を有名にしたい。

子どもの頃から狭山に住んでいるが、風光明媚なところである。狭山池に写る山々の景色をはじめ、災害の割と少ないところであると感じている。また、都会にお住まいの方が狭山に引っ越されたときに、空気がよいと言われていたことがあり、本当に住みやすいまちである。そういう特徴を活かして、小さくてもいい住みやすいまちを目指すのがよいと思う。

合併などによって他のところに狭山のよいところを持っていかれないように、自分たちのまちは、自分たちで守るようにしなければならない。

南河内の中でも狭山が一番、教育や小・中学校給食など進んでいると思う。

色々な問題もあるけれど、よい面も多いし、狭山はやはり住みやすいまちである。

(久先生)

ある意味恵まれているし、豊かであるし、環境がよいから、どこの市とも合併する必要が無い。合併すると、その負の遺産を貰ってしまうということであろう。岸和田市と忠岡町のようなものである。忠岡町も合併しないのは、繊維産業で豊かな人が多く、岸和田市と合併するメリットが無いということであった。そういう意味では、コンパクトでずっとこられている市や町はそのあたりの誇りや資源というものがあると思う。

歴史や文化があることと、それを誇りに思って書くこととは違う。その確認を皆でしておいた方がよい。

その確認は、取りあえず書いてみて確認していかなければならないと思う。

狭山池自体が、さくらの名所になっているが、そのことを書いてみてはどうか。

昔の狭山池の桜はとても立派であったということをよく聞く。市の木も桜である。

水に関しては、狭山の人には敏感であると思う。西除川も最近きれいになり、上流で鯉が産卵期か何かで上がってきている。

歴史と言うものをどの様にして守るのが、継続していく事が大切である。

事務局

話しの切り出しとしては、狭山のことを書くには、狭山池はどうしてもはずせないと思う。位置的にも中心にあるし、思いの部分にも狭山池が浮かんでくる。

(久先生)

私が、外側から見させていただいて感じたことは、さやかホールの存在が大きいと思う。これぐらいの人口規模で、あれだけのホールをいつも満杯にしていることは、凄い文化的なレベルの高さを感じる。人口が30万人、40万人の規模であれば、さやかホール規模のホールを満杯にすることは可能であるが。

ずっと赤字である。

席数が中途半端である。多くするか、減らすかどちらかにすべきであった。

河内長野市のラプリーホールは、催し内容が違い、集客力がある。

(久先生)

私が外から見てみると、これだけの人口で、あれだけのすばらしいホールがあるのはすばらしい、資源、資産であると思う。

なぜ、この話しをするかと言うと、「はじめに」のつぎの文章が? がってこない。無駄であると言うのなら、今後活用していくということが書けなくなる。

狭山藩の話も然り、このメンバーで確認をしておかないと、「はじめに」が完成した時に、自分たちが思っている内容と違うということにもなりかねない。

この提案いただいた内容をたたき台にするのであれば、福祉の内容が入っていないのが気になる。狭山の福祉についての特徴はどの様なものか。

財源が豊かな時代は、給付金などが充実していた。また、福祉センターの活用が送迎バスの運行などで活発であった。

事務局

行政側から言うと、高齢者の福祉については、介護保険制度など国の制度が増えてきている。そのため、市としては子育て関係の福祉に重点を置きはじめています。この取り組みに対して、市民の方の受けとめ方はどうであるのかということである。そういう部分もあれば「はじめに」に書き込めばよいと考える。

狭山は、南北に長く東西が狭い。南海の駅が3駅あり、交通の便は、他市に比べると非常によいと思う。その点は、自慢できるところではないのか。

南第一幼稚園を子育て支援センターに替えたが、若いお母さん方から評判がよい。

狭山における高齢者の介護については、家族の持てるある程度の豊かさはあるのか。

事務局

国制度により、金銭的には必要であるが、家族の負担が軽減されている。

地域包括支援センターも小回りを利かせていただいている。

税収の問題でも人口6万人の規模の都市がどうかということであるが、割と行政が身近にあり、対応も早いということで、こじんまりしているのがよいということである。そのよさをどの様にキープするのが、今瀬戸際じゃないかと思う。

福祉センターの入浴料の件であるが、老人会では最近のお風呂がきれいになり、よくなったと言う声があった。

結論的には、高齢者も住みやすいまちであるということになる。

事務局

「はじめに」の部分は、先程のイメージを進めるとして、「おわりに」については、委員の皆さんの一人ひとりの意見を載せたほうがよいと考えている。イメージは、感想文的なものでよい。その内容を次回までに考えてきていただければありがたい。

提言の本体の意見についても平行して意見をいただきたい。意見は、次回の開催が5月29日であるのでそれまでに、メールでもファックスでもよい。

(久先生)

今、和泉市でも提言書の素案を起草委員会が作っているが、全委員が見て、修正を行っている。個々の意見を具体的に考えて、本文のどの部分を修正するのかを明確にしたほうがよい。

また、「はじめに」の部分は、委員のうちの数名で、別の日に集まって事務局と一緒に作り上げる作業をしたいという事務局の意向である。

別の委員からの推薦などにより3名の委員にお願いする。日程の調整は、会議終了後に調整する。

次回の予定は、5月29日(木)に開催する。

以上